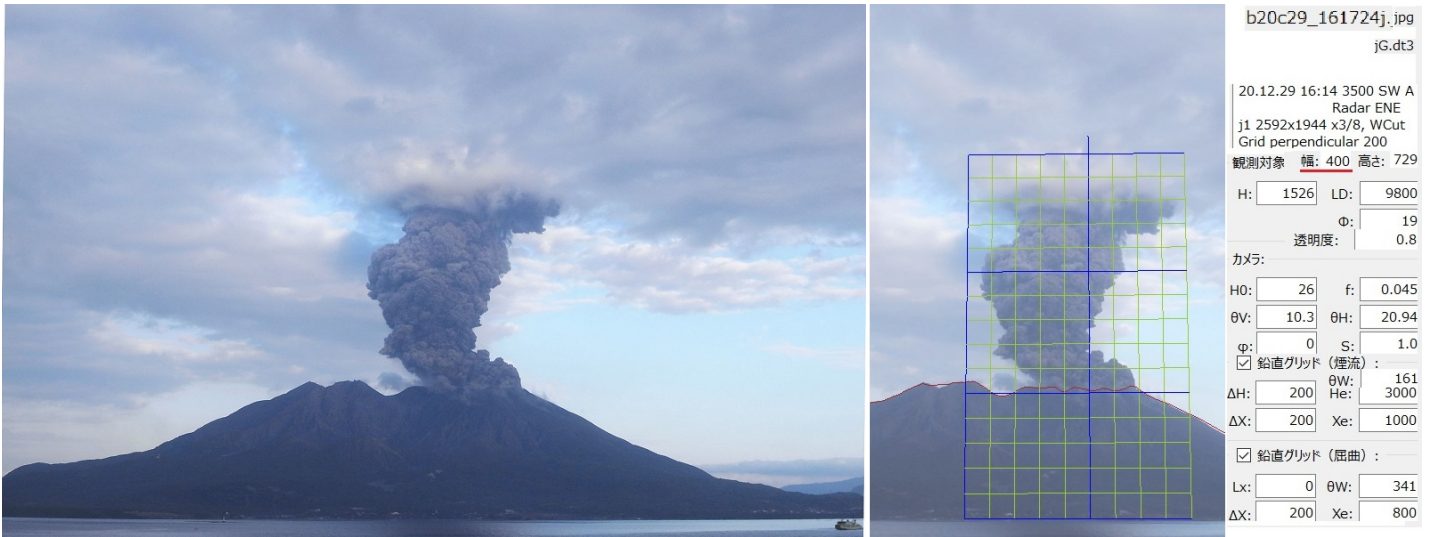


1 1. 雲へ突入する噴煙 2020.12.29_16:14

11-1. B点から

桜島噴火・爆発リストでは、噴煙高度3500m, 流向SW, 噴出口は南岳A火口とある。南岳のA,B火口を区別しているのは2020年からである。爆発の低周波音・振動をB点で聞いてカメラ j= Ricoh GXRでやっとならした時は、既に雲に突入していた。

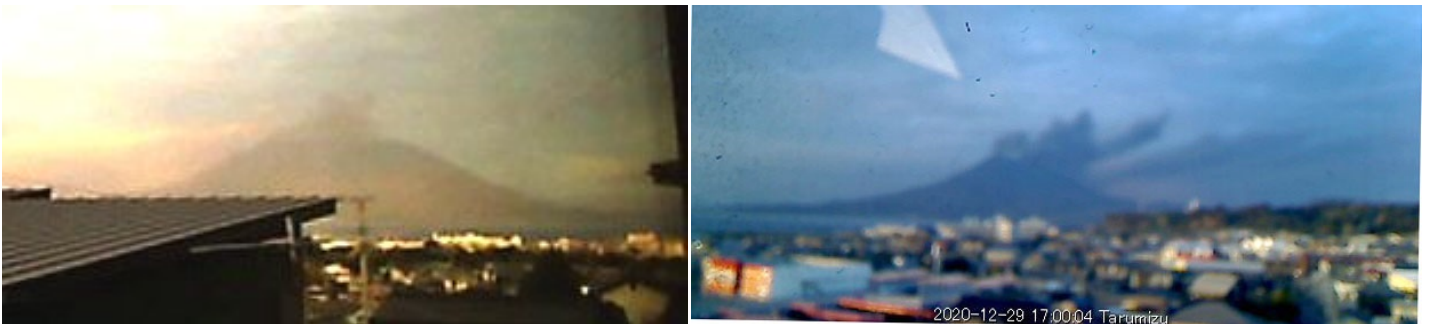
上昇から突入、更に東方への移流は、中谷先生による3階建ての鹿大地震火山地域防災センター屋上カメラの動画で良くわかる。雲には切れ目があり、気象台の牛根カメラなどの多点観測では噴煙高度が評価できたのだろう。



[b20c29_161724jc](#), 上下cut

[b20c29_161724jGc](#) 200m Grid (Width cut)

11-2. 錦江台と垂水から



[K_17cd](#) cut, down part

[T_17rd](#) rot, down part



[K_17cGd](#)

[T_17rFd](#)

噴火から46分経過した17時には爆発噴煙は流れ去ったと思われるが、灰煙放出が続き東流している様子がK, T点からの定時記録から窺える。レーダ画像の流向もENEである。T点の流向グリッドFでθW=240° はこれに合せた。リストの流向SWは何故だろうか。